

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 13 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏 名	小林直人
研究課題	自然言語生成 AI 普及に伴った大学のリテラシー教育に関する研究				
研究キーワード	大学教育、自然言語生成 AI	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	該当なし	
1. 研究成果の概要 大学教育における Chat GPT の活用、特に学生の授業および授業外活動の利活用、および教員の授業資料作成に関する利活用は、本学学生からの調査および私自身の経験を通じて、多くの知見が得られた。これらは 2025 年度以降における、本学の初年次教育である「情報入門/実学入門 I」の教材に反映させ、その教育効果を計ることにより、新たな研究に繋がると考えている。 一方、単年の研究成果としては、本研究のテーマが現在、情報科学および教育工学におけるホットトピックであり、同様の研究が多く行われていることもあり、対外的に発表するには事例や調査、情報整理が不足していると思われる。よって今年度の成果はまず本学の機関紙に投稿する予定である（2024 年度夏予定）。 2. 著書・論文・学会発表等 （できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 【論文（査読あり）】 なし 【著書・論文（査読なし）】 なし（本学機関紙投稿予定） 【学会発表等】 なし 3. 主な経費 情報収集等の謝金に利用した。具体的には ChatGPT4 を自身で契約して活用している学生に協力を依頼した。春学期の授業活用方法について、調査ログを整理してもらった他、所感などのレポートを作成してもらった。その他、定期的に勉強会を行い、生成 AI についての考えや活用事例について意見をもらった。 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） 特になし (本文は 2 ページ以内にまとめること)					